

高校生のライフスタイルと被服行動に関する調査研究（第2報）
 高校生の被服行動特性について
 奈良女大家政 中川早苗 岐阜女大家政 大喜多佐代子
 県立会津短大 松浦悠紀子 文化女大家政 ○万江八重子

目的 人間主役の成熟社会の中で、生活に心の豊かさを求め個性的で充実した生き方を志向する人々が増えている。衣生活においても多様な既製服の中から、自分の好みやイメージにあったものを自由に選んで、個性的で創造的な装いを楽しむ人々が増えている。本報では、高校生の服装に対する興味や関心、好み、着装行動や、購買行動などについて調査を行い、その特性について検討した。

方法 調査の概要は第1報と同じである。主な調査項目は、ファッション情報への関心度、ファッション意識、ファッション行動、着装態度、好きな服装、購買行動、1ヶ月の被服費などである。データの集計、分析には単純集計、クロス集計、因子分析の手法を用いた。

結果 単純集計およびクロス集計結果より高校生の被服行動特性をみてみると、ファッション情報への関心度が高く、ファッションを、心楽しく新鮮な気分にしてくれるもの、個性を表現してくれるもの、生活を楽しく豊かにしてくれるものとして高く評価している。着装態度においても着心地や肌ざわり、動き易さを重視し、他人に不快感を与えない好感を持たれる清潔な服装をしたいと望んでいるものが多い。また軽快で簡素で自然なすっきりしたイメージの服装や現代的で大人っぽい個性的なイメージの服装を好むものが多い。購買態度でも、自分の好みや見た感じ、流行などを重視し、デパートや専門店で購入するものが多い。1ヶ月平均5千円から1万円を被服費にあてている。好きなイメージの服装について因子分析を行った結果、5つの主要な因子が抽出された。